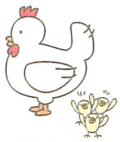
ドクターマロニエ9

体のはなし

我がふるさとよ、
汝は永(なが)く最上であれ

下都賀総合病院消化器科
江田　証先生



第70回

便潜血について（父の治療経験から）

今回は、私がまだ自治医大の大学院生だった頃、父の大腸内視鏡治療を行ったエピソードをお話します。

数年前から、父は検診で便潜血が陽性だったため、大腸内視鏡検査をすすめていたのですが、「軽い痔があるからそのせいだろう」と乗り気ではありませんでした。しかし、内視鏡のテレビモニターに映ったのは、大きく、真っ赤に充血した大腸腫瘍だったのです。これが便潜血陽性の原因でした。

さっそく大学病院に入院させて、内視鏡的手術を行うことにしました。ただ、同僚や恩師からは、「自分の身内の手術はしないように」と言われていました。身内の場合、冷静な判断ができないから、という訳です。

しかし、父は「息子のお前でなくては誰にも切らせん」と言います。私は、自分の手で父の手術をすることに決めました。手術台の上に乗った父を見ると、さすがに自分の気持ちはいつもと違うことがわかりました。しかし、内視鏡を入れたその瞬間に、いつもの内視鏡医に戻っていました。大腸のひだをかき分けて内視鏡を進め、目的の腫瘍を捉え、その粘膜の下に特殊な液体を注入して盛り上げる。そこに輪の形をした電気メスをかける。ここまでくると、私は今手術しているのが、自分の父であることをほとんど意識せず、まるで自動回路が組み込まれているかのようでした。電気メスに通電して腫瘍を一括で切除し、後で出血しないように徹底的にクリップをかけて縫(ほう)縮(しゅく)し、手術は無事終了しました。

結果は、「腺腫(せんしゅ)」という、癌になる一歩手前の良悪性境界腫瘍でした。しかし、かなり大きかったので、もしあの時発見し完全切除しなかったら、今頃父は大腸癌で大変なことになっていたのは間違いありません。またこの時、親子の絆(きずな)というものを強く感じたのでした。先日も当院で父の大腸内視鏡検査を行い、再発がないのを完全に確かめました。

その父は現在、吹上中学校の校長をして職員生活を無事終えることになりました。地域や教職員に支えられてこうしてめでたく定年退職を迎えられることは息子として非常にありがたく、感謝の念で一杯です。

皆様も、便潜血が陽性だったり、心配な症状がありましたら、優秀なスタッフが揃っている当院にお越し頂き、是非検査を受けてみてください。我々は、「軸保持短縮法」というテクニックを用いて大腸内視鏡検査を行っています。これは従来の方法より苦痛の少ない新しい挿入方法です。そうしてふるさとの皆様が健やかに生活できるように祈っています。「わが愛するふるさとよ、汝は永(なが)く最上なるべし」。

平成17年 春の交通安全県民総ぐるみ運動

栃木警察署

－マナーアップ！　あなたが主役です。－

期　　間：4／6（水）～15（金）
基　　本：子どもと高齢者の交通事故防止
重点内容：1．二輪車の安全利用の推進
　　2．シートベルトとチャイルドシートの

栃木地区では2月15日現在、3人の方が交通事故で尊い命を失っています。死亡事故の内容は次のとおりです。（前年同期比3人増）

- 交差点での出合い頭
- 正面衝突
- 夜間、自転車への追突